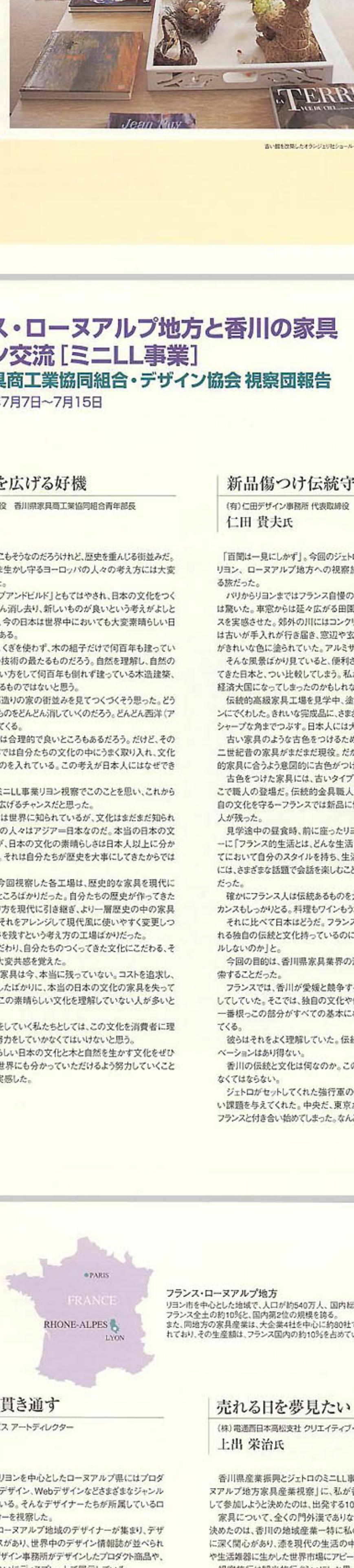


# Kagawa Design Association

香川県デザイン協会 会報 2001 vol.10



古い部屋を出したオランジンセショールーム

## フランス・ローヌアルプ地方と香川の家具 デザイン交流「ミニLL事業」

香川県家具商工業協同組合・デザイン協会 視察団報告

実施:平成13年7月7日～7月15日

### 日本文化を広げる好機

(株)カトミ賞賛取締役 香川県家具商工業協同組合青年部長 石田 駿氏

ヨーロッパの国はどこもそのうなれけれど、歴史を重んじる街並み。古い街並みをそのまま生かし守るヨーロッパの人々の考え方には大変共感があった。

日本では「スラップアンブリード」ともではやされ、日本の文化をつくってきた神話をどんと消し去り、新しいもののがいいという考えがよしとされた。そのための日本は世界中においても大変素晴らしい日本の文化がいつづける。

例えば、木造建築の使い方をせず、木の柱だけが何百年も倒れず建っている木造建築、それが日本人が今までやめてきたものではないと思う。

今回、フランスの石造りの家の街並みを見てつくづくそう思った。どうして日本が白日本いのものを使わぬし、他の柱だけが何百年も倒れてしまう日本の木造建築技術の最高たるものだろう。自然を理解し、自然の構造に合った木の使い方をして何百年も倒れず建っている木造建築、それが日本人が今までやめてきたものではないと思う。

今日は、このジェトロミニLL事業団視察でここを思い、これから絶対に日本を世界に誇れるチャンスと思った。

先端技術では日本は世界に知られているが、文化はまだ知らない。ヨーロッパの人々はアジア=日本の文化は日本との文化の素晴らしさは日本人以上に分かっているかもしれない。それは自分たちが歴史を大事にしてきたからではないだろう。

この背景の中で、今回視察した各工場は、歴史的な家具を現代に再現した家具を作ることはなかった。自分の歴史が作ってきた家具のデザイン、作り方を現代に引き継ぎ、より一層歴史の中の家具に近付けて、またそれをアレンジして現代風に使いやすく変更しつつも、昔の家具の良さを残すという考え方の工場ばかりだった。

材料や作り方にこだわり、自分たちのつくりてきた文化にこだわる、そんな工場に私たちの大変共感を覚えた。

日本では、昔からの家具は今、本当に残っていない。コストを追求し、合理性ばかりを追求したばかりに、本当に日本の文化の家具を失っている。また消費者もこの素晴らしい文化を理解していない人が多いと思う。

これからものづくりをしていく私たちとしては、この文化を消費者に理解してもらるために努力をしないでいけないと思う。

最後に、この素晴らしい日本の文化と自然を生かす文化をぜひヨーロッパにもまた、世界にも分かっていただけるよう努力していくことを私たちの仕事だと実感した。

最後にあるヨーロッパのデザイナーがこう言った。「私は一年をかけて、自分のデザインを貰いました。それは、根気よく、企業を説得したからだ」

### 新品傷つけ伝統守る

(有)仁田デザイン事務所 代表取締役

仁田 貴夫氏

「百聞は一見にしかず」。今回のジェトロ香川ミニLL事業によるフランス・リヨン、ローヌアルプ地方への視察旅行は、まさにこの一言を実感する旅だった。

パリからリヨンまではフランス自慢のTGV、その静かさとスムーズには驚いた。車窓からは延々広がる田園地帯が、豊かな農業大国フランスを実感させた。郊外の川にはコンクリートが全然見えない。町の家々は古いが手作りが行き届き、窓辺や玄関に多くの木製の窓や雨戸がきれいな色で輝いていた。

そんな風景はかり見ていたい。便りや電話ばかり優先して突っ走ってきた日本と、つい比較してしまう。私たちは何か大切なものを忘れて、経済大国になってしまったのかもしれない。

伝統的高級家具工場を見学中、塗装前の完成品に傷をつけるシーンにびっくりした。きれいな完成品に、さまざまな道具を使い細かい傷をつけ、シャープな角までつぶす。日本人には大変珍しい光景だった。

古い家具のよなよな感がつけるためだが、フランスの家庭では、一、二世紀昔の家具がまだ現役。だから新しい家具も、古い家や伝統の家具に合う意匠のものがいいらしい。

古色をつけた家具には、古いタイプの重厚な金具が必要になる。そこで鍛冶の登場だ。伝統的家具職人の技が必要になる。伝統と独自の文化を守る一フランスでは新品を傷つけることによって、豊かさと職人が残った。

見学途中の昼食時、前に座ったリヨンデザインセンターのディレクターに「フランスの生活とは、どんな生活？」と質問してみた。答えはずべてにおいて自分のスタイルを持ち、生活を豊かに楽しむこと、食事の時には、さまざまな話題で会話を楽しむこと。芸術、文化、経済、娯楽……」だった。

確かにフランス人は伝統あるもの大切にし、最新技術も大好き。バランスもしっかりだ。料理もワインも美しい。何ぞ大丈夫っぽい。

それに比べて日本はどうだ。フランス人にも指摘された。「世界に誇れる伝統と文化持っているのに、どうして日本は世界にアピールしないのか」と。

今回の目的は、香川県家具業界の活性化と新しい展開のヒントを模索することだった。

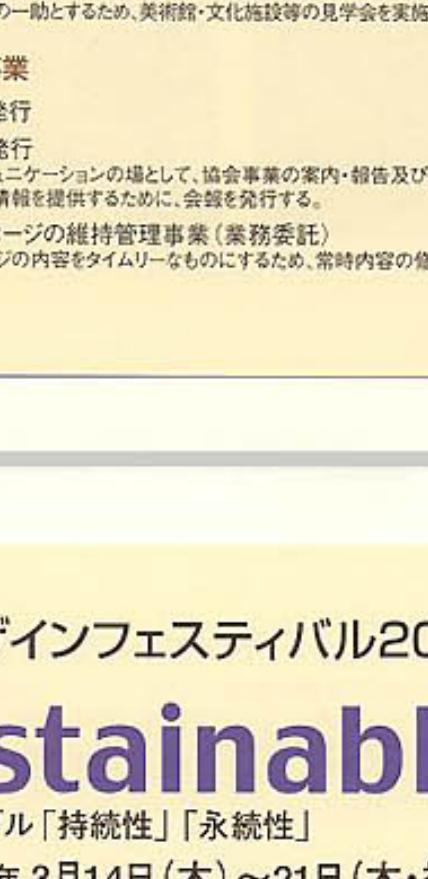
フランスでは、香川が愛媛と競争するように、ドツヤズペインと競争している。そこでは、独自の文化や伝統が大事になってくる。

一番困るのはこの部分がすべての基本になり、そこから新しいアイデアも出てくる。

彼らはそれをよく理解していた。伝統や独自の文化がなければ、インベーションはない。

香川の伝統と文化は何なのか。この基本的なことから検証していくしかないならない。

ジャパンがセトてくれた強行軍の研修旅行は、帰国後も随分難しい課題を与えてくれた。中央だ、東京だと言っている暇はない。香川はフランスと付き合い始めてしまった。なんとかお互いに付合いにしたいのだ。



自分の主張貫き通す

(株)スマートジャパンサービス アートディレクター 荒 桂秀樹氏

フランス第二の都市、リヨンを中心としたローヌアルプ県にはプロダクトデザイン、グラフィックデザイン、Webデザインなどさまざまなジャンルのデザイナーが集まり、デザインができるスペースがあり、世界中のデザイン情報誌が並べられている。アーティストは各デザイン専門会社がデザインしたプロダクト商品や、ポスター、パッケージなどで毎日見ています。

中には日本メーカーのスケッチ板や明暗スタイルがあり、それほど狭いと感じます。実際には手にとめて見ることができ、デザイナーたちのPRができる場所になっています。

日本では、昔から家具の品質を評価する「良否」が一つの基準でした。

フランスでは、良否ではなく、デザインの良否が一つの基準です。

フランスの良否は、デザインの良否を評価する一つの基準です。

フランスの良否は、デザインの良否を評価する一つの基準です。